

江戸時代の庶民生活の諸相を貴重な版本(影印)で見せる一大叢書
収録分野・領域(ジャンル)がさらに多彩な広がりを見せる〈第2期〉

江戸時代庶民文庫 〈第2期〉

〈第2期〉第2回配本

解題 小泉吉永(こいずみ よしなが)
〈往来物研究家〉

*各巻
分売可

全5巻(第66～70巻) * 2018年11月刊

巻【ジャンル】(収録資料点数)	頁	ISBN	本体価格(税別)
66巻【笑話・小咄】(4点)	350頁	978-4-86688-066-2	14,800円
67巻【物産】(2点)	590頁	978-4-86688-067-9	23,400円
68巻【歌謡】(7点)	320頁	978-4-86688-068-6	14,000円
69巻【教育・学問】(4点)	390頁	978-4-86688-069-3	16,200円
70巻【人物辞典】(1点)	480頁	978-4-86688-070-9	19,600円
全5巻揃(66～70巻)	総約2130頁	978-4-86688-102-7	88,000円

[体裁] A5判・上製・クロス装

〈第2期〉第1回配本 全5巻(第61～65巻) * 2018年6月刊

巻【ジャンル】(収録資料点数)	頁	ISBN	本体価格(税別)
61巻【園芸・飼育】(4点)	320頁	978-4-86688-061-7	14,500円
62巻【科学(化学・物理・理学)】(4点)	450頁	978-4-86688-062-4	19,500円
63巻【食養生】(2点)	380頁	978-4-86688-063-1	16,200円
64巻【料理・近代家政】(4点)	350頁	978-4-86688-064-8	14,500円
65巻【絵画(入門書)】(1点)	310頁	978-4-86688-065-5	13,300円
全5巻揃(61～65巻)	総約1810頁	978-4-86688-101-0	78,000円

〈第1期〉好評発売中!

全60巻・別巻1 全8回配本(2012～2016)



*詳細案内進呈
(ご請求下記へ。ホームページでもご覧になれます)

「江戸庶民」の生活を知る
江戸時代庶民文庫 別巻「解題・索引」

全60巻を
縦横無尽に
駆け巡る!

A5判・上製・660頁 978-4-908926-02-0 28,000円(税別)

学術資料出版

大空社出版

東京都北区中十条4-3-2 (〒114-0032)
TEL:03-5963-4451 / FAX:03-5963-4461
eigyo@ozorasha.co.jp

・お取扱い

江戸時代庶民文庫

学術資料出版

大空社出版

新たな江戸時代の魅力を発見する一大叢書

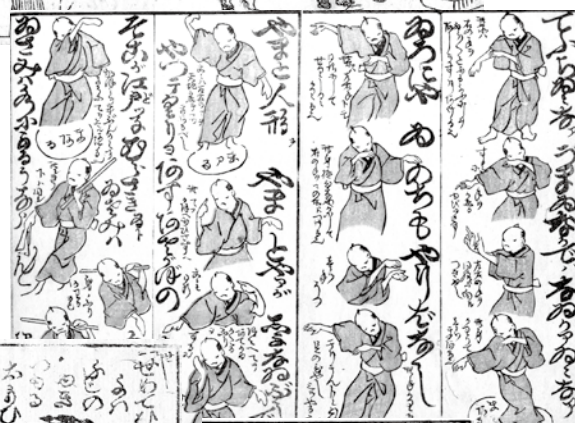
好評〈第2期〉刊行中

〈第2期〉 第2回配本 (第66～70巻)

街の音が聞こえてくる



江戸庶民の
息遣いが
聞こえてくる



図版は第2回配本収録資料より

〈上より〉広益国産考(67巻) / 新ばんはうたおどりひとりげみこ(68巻) / どゞいつ図会(68巻) / 間合早学問(69巻) / 大津絵婦志(69巻)

第66巻【笑話・小咄】

(収録4点)

時勢話大全(いまだいせん) 橘香亭瓶吾作・序。高橋栄治軒書。安永6年(1781)1月刊。「大阪」渋川久蔵板。▽絵入りの小咄集。大半が半丁程度の短編で全5巻に50話を収録。小咄の題目と出典のみを示した箇所もある。随所に咄本の広告を掲げる。早説法、旦那臚頭、弥陀の光、孝行白、住吉詣、夜明の山葵、戎膳、真田山、井の内蛙、見せ大根、等。

しみのすみか物語(しみのすみかものがたり) 石川雅望(六樹園・宿屋飯盛・蛾術斎)作・序。司馬江南(仮)画。享和2年(1802)8月、大郵詔(周斎)序。文化元年1月、朝田保清跋。文化2年(1805)春刊。「名古屋」永楽屋東四郎板。▽『宇治拾遺物語』風の擬古文・平安説話集風の雅文で書かれた笑話集。当時の題材の他、中国説話集や漢文笑話集からも着想を得た話からなる。上下二巻、合計55話。色好の男簾の際より女をみる事、丹後国の痴人竜宮に行たる事、等。

奇談新編(きだんしんぺん) 淡山子作。紀洋子、高村幹斎補。天保13年(1822)5月、三橋子序・刊。「江戸」松濤館蔵板。「大阪」象牙屋治郎兵衛ほか売出。▽長短含む49話から成る漢文笑話集。独創のみでなく和書や漢籍からの翻案も多く、著述と編訳が相互に混じり合った日中混成作品。種々の奇談に潜む寓意を読み取ることを読者に促す。

古今秀句落し噺(ここんしゅうおとしばなし) 景斎英寿(二代目一筆庵・一筆斎・吉泉子)作。弘化元年(1824)春、溪斎英泉(一筆庵・楓川市隠)序・刊。「江戸」本屋又助板。▽古今の秀句を題材にした短編笑話集(咄本)。いずれも最後に落ちを付ける小咄で、半丁程度の短文から数丁に及ぶ長文もある。富士、梅見、桜、吉原、松竹梅、骸骨、大晦日、夕立、等15話。

第67巻【物産】

(収録2点)

広益国産考(こうえきこくさんこう) 大蔵永常(黄葉園主人)作。天保15年(1844)1月作。安政6年(1829)9月初刊。「大阪」豊田屋宇左衛門ほか後印。▽江戸後期を代表する農学者の集大成的農書で、諸国特産品や加工品の知識技術、農業経済上の心得等を多くの図版を交え記す。全8巻。最も詳細な農書として影響は近代以降まで及んだ。国産を拵ふる心得の辨、杉の木仕立方の事、土地風気の辨、蕨を織る指南、蕨、醤油、木綿、養蚕、蜂を畜て蜜をとる事、農家の益となるべき植物の事、等。

国産考(こくさんこう) 大蔵永常作。松川半山画。天保13年(1822)3月刊。「京都」丸屋善兵衛ほか板。▽前掲書に先立って冒頭2巻のみを刊行したもの。本文は同じであるため、表紙・巻頭・巻末などを参考資料として抄録。

第68巻【歌謡】

(収録7点)

大津絵婦志(おおつえいぶし) 一荷堂半水(情夫・狭川峯二・佐川峯二)作・画。安政年間(1824-1830)刊。「大阪」板元不明。▽三味線の調子を派手で陽気な二上りで歌う単純簡潔な俗曲、当時の流行歌・戯歌であった大津絵節を半丁に1曲ずつ収め挿絵を添えたもの。よし原言葉、降物づくし、梅と月の色事、江戸歌づくし、なにやらの名よせ、天神まつり、など27曲。どいつ図会(どいつずいご) 梅暮里谷峨二世(古久我・萩原乙彦・歌沢能六斎・金竜山人・鈴亭)作・序。歌川国郷(立川国郷・立川斎)画。文久2年(1862)3月、松島庵主人序・刊。「江戸」刊行者不明。▽俗謡(都々逸)集。前半部に情歌48曲の他約70曲、後半部に小編の三味線声曲集等約30曲を収録。上方唄、清元節、常磐津節などの流派や、本調子、二上り、三下りといった三味線調弦法も付記する。

〈調子附替唄入〉端唄独稽古(はうたいつけかへうたいり) 光盛舍作丸編・序。光斎(歌川芳盛・一光斎・さくら坊)画。安政3年(1826)4月、夏自序・刊。刊行者不明。▽「光盛連」と称する端唄連を主とし、編者自身も含む十数名の作品を集めた端唄集。作品毎に作者名や住所を記す(江戸橋てつ、桜川我幸、上広光盛連よね丸、等)。

哇節用集(わしちようしゅう) 梅暮里谷峨二世編・序。光盛舍佐久丸(作丸)画。光斎書。初編・安政4年(1827)1月、金竜山人序。二編・安政4年春、金竜山人序。「江戸」刊行者不明。▽女子用往来や女用文章に頻出する名歌やその他の記事、消息例文等に端唄や都々逸を盛り込んで編んだパロディ・戯文集。ちらし文のかきやう、年中用文章書様替唱(夜ざくら、夏は両国、萩桔梗、枯野、等)、七小町詠歌度独逸、「哇(はうた)」という名称の由来、等。

はうた用ぶん章(はうたようぶんしょう) 梅暮里谷峨二世編・序。光盛舍佐久丸画。光斎書。安政4年(1827)1月、金竜山人序。刊。「江戸」刊行者不明。▽前掲書の前半部(初編)のみを抜粋した改題本。ほとんど重複するため、冒頭部と末尾のみを収録。はうた手おどり稽古本(はうたておどりきこほん) 十返舎一九作・序。江戸後期刊。「江戸力」まつ金板。▽端唄踊りの舞踊法を図解した教則本。割注形式で仕草・動きの略注と図解を添え、曲毎(全11曲)に衣装の色を変えて見やすくする工夫も見られる。

新ばんはうたおどりひとりげり(しんぱんはうたおどりひとりげり) 歌川芳晴(一寿斎・一梅斎・朝香楼・芳春)画。江戸後期刊。刊行者不明。▽前掲書と類似の端唄踊りの教則本だが、こちらは舞踊の図解を中心に大きく掲げ、より詳細に説明。本文末尾で舞踊稽古の秘訣も助言する。やまがゑり、あだなゑがほ、一とよをはり、のぼりくだり、一とよあくれば、の5曲。

第69巻【教育・学問】

(収録4点)

物覚早伝授(ぶつかくさうでんじゅ) 呉門先生作。久保田雲亭校。山本一馬・拙堂癡人序・刊。明和2年(1765)3月、山本一馬序。明和8年秋、拙堂癡人序・刊。刊行者不明。▽作者伝授の種々の記憶法を記した書。後篇予告があるが未刊。本書の記憶術は卑賤ながら極めて実用的と述べ、具体的な記憶術を展開。擬託法(「学面」を「字を書く」と借転)、種子法(一二三四等の順序を記憶のよすがとする)、器物験証、心法、無形有形、源氏験証等12項目。

間合早学問(まあわせばなまな) 大江玄圃(久川鞆負・大江資衡・樺圭)作。近藤正信(国宝)校。藤応拳(仲選)訂。安永2年(1773)2月自序・刊。「大阪」河内屋新治郎板。▽漢学入門者のために仮名書きで学問の要点を記した『間合早学問』(同作者・明和3・1766/本文庫51巻所収)の後編として編まれたもの。『唐土代々の事を委く記し』詩の作りやう、平仄・韻字の押やう、書家の心得・面賛の仕やう…朱青墨印肉の拵やう秘伝…を詳にあらはし、いかなる無学の人々も、ならわうして忽ち学者となり玉ふ…

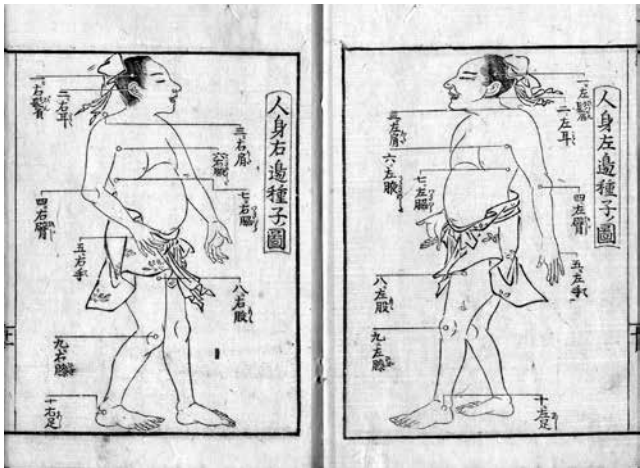
一覽博識(いっかんはくしき) 茹蘆山人作・序。安永9年(1780)10月初刊。文化9年(1812)7月求板。「江戸」永楽屋西四郎求板。▽漢学入門者に経書や関連の初歩的知識を記した書。基本的な儒教経典・十三経(易经・書経・詩経・三礼(周礼・礼記・儀礼)・春秋三伝(左氏伝・公羊伝・穀梁伝)・論語・孝経・孟子・爾雅)や中国歴代の正史・二十一史、六経、文章や詩の諸体系等。

文教温故(ぶんぎょう) 山崎美成作・序。文政11年(1828)1月序、同年刊。「江戸」和泉屋庄二郎ほか板。▽初学者のために学問の要諦や心得を体系的に述べた書。いずれも故実や典拠を逐一提示・引用しつつ計10章68項について概説。文学、学校、経籍、訓点、読法、文字、文章、詩賦、和歌、印板の分類。

第70巻【人物辞典】

(収録1点)

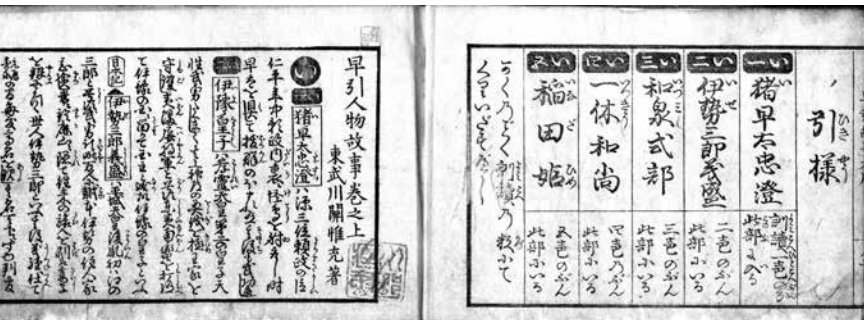
〈古今評論〉早引人物故事(やひきんぶつものがたり) 川関惟充(川関楼・琴川)編・序。享和2年(1802)1月自序。文政8年(1825)2月刊。「大阪」河内屋茂兵衛ほか板。▽神代から近世まで、外国人や伝説上も含む約1800人を収録したイロハ引き日本人物辞典。耳慣れた読み方で童蒙の引きやすさを重視、例えば、人名第一音と訓読(よみごころ)の音数で引く、「伊勢」なら「い・二」、「和泉」なら「い・三」等。



物覚早伝授(69巻)



哇節用集(68巻)



〈古今評論〉人物故事(70巻)



古今秀句落し噺(66巻)



国産考(67巻)



時勢話大全(66巻)

しみのすみか物語(66巻)